

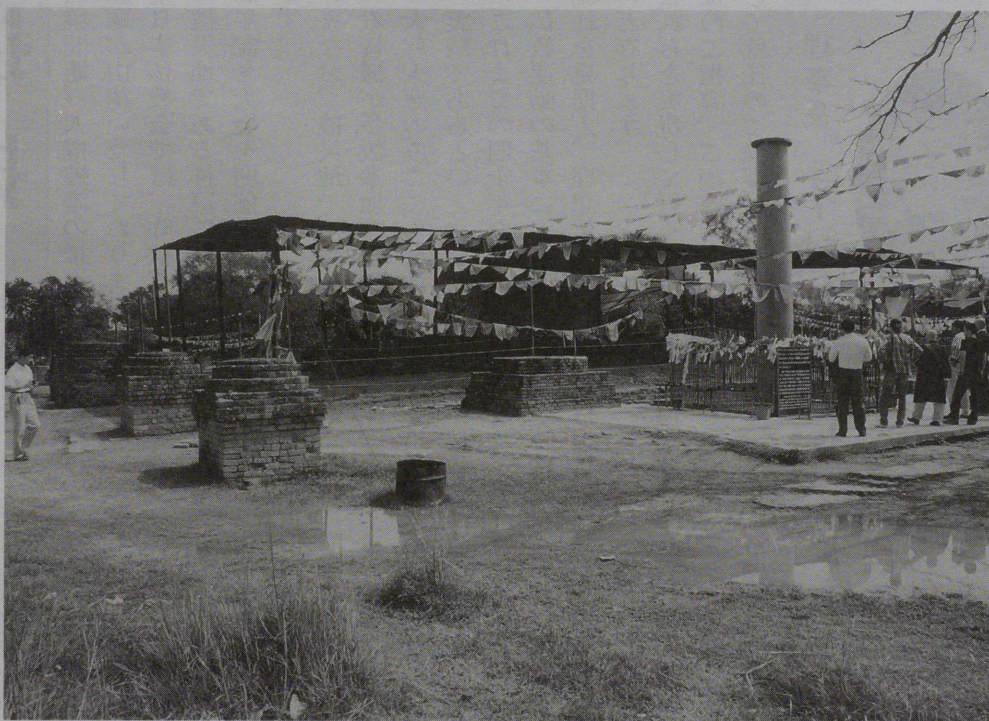
全仏

ZENBUTSU



437

仏暦2541年4月 (1998年)
財団法人 全日本仏教会
JAPAN BUDDHIST FEDERATION



マヤ堂修復現場の近影 (1998年3月上旬撮影)

会長、理事長就任挨拶
仏教とマルチメディア
戒名問題についての研究会

就任ご挨拶

会長 濱野 堅照



この度、真言宗智山派高井隆秀猊下に継いで、図らずも全日本仏教会第二十三期の会長に御推輓を賜りました、真言宗豊山派管長濱野堅照でございます。極めて学徳の高い四名の副会長方と共に御推挙頂きました。新理事長をはじめ、関係各位の御教導のもとに、その職責をまっとうしたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、近年我が国の様相は、政治の混迷、経済の低迷に加え、目を覆うべき事件が続発しております。人が何を信頼し、何に頼ったらよいか、その指針を失うとき社会不安にまで発展することも懸念されます。このような時代を迎え、我われ仏教者は自らを律し、社会の先頭に立って諸課題に取り組んで参らねばなりません。

いまや、仏教界に寄せられます期待は大きなものがあります。世界平和、難民救済、地

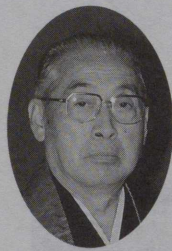
球環境問題、人権擁護の推進等、取り組むべき課題が山積いたしております。

全日本仏教会では、昨秋、阪神・淡路大震災の被災地である神戸において、財団創立四十周年記念大会を開催されたとお聞きしております。

いまなお、被災地で不自由な生活をなされている皆様が多数参加なされました。みほとけの大慈大悲のみこころを体した、まさに仏道の実践であるといえましょう。全日本仏教会のこれまでの四十年を踏まえ、あらためて全一仏教運動の基本に立ち返り、新しい時代の流れを見据え、理想仏国土の実現を目指したいと存じます。

これらを実現して行くためにも、加盟団体各位のご指導、ご鞭撻を深くお願い申し上げます。まして就任のご挨拶といたします。

理事長 不破 仁



会第二十三期の理事長に選出され、就任いたしました真宗大谷派宗議会議長の不破仁であります。

その任の重大さを痛感しています。私は、もとより浅学にして非才、微力の身であります。本会加盟の皆様と関係各位のお力添えにより、その職責を精一杯つくしてまいりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

今日の社会情勢を省みますとき、政治的にも社会的にも混沌とした不透明な状況にあつて、物質文明至上主義に呪縛され、その底には言いしれぬ不安感・不信感が漂い、まさに真の価値観、真の依り所が見失われた時代状況にあると言わざるを得ません。

それは人権問題、教育問題、あるいは臓器移植や環境問題など様々な問題となつて現実に見えています。このような仏教教団を取り巻く社会環境は、複雑多岐にわたつていますが、そのいずれもが、仏教者としての私どもにもとめられている課題の深刻さを示唆しているものと、思わずにおれません。

濱野会長はじめ本会評議員会・理事会並びに関係各位のご協力ご提言をいただきながら、本会として課せられた課題に積極的に取り組んでまいり決意であります。皆様の温かいご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

このたび、白幡憲佑前理事長に継いで、本

仏教とマルチメディア研究会

第四回仏教とマルチメディア研究会が、三月十六日午後二時から、明照会館会議室で開催された。

今回は、「CDデジタル放送への対応」をテーマに、各宗派の現状や今後の予定が報告され、意見交換が行われた。

最初に、野生司社会部長から、設立に向けて準備が進められている、宗教専門のTV放送局「ランチ」について、これまでの経緯と可能性が説明された。続いて、真宗大谷派及

び浄土真宗本願寺派から、CSデジタル放送利用の具体的計画が報告された。

出席者からは「広く資料を集め、さまざま可能性をさぐってほしい」「教団内部のソフト制作を充実すべきだ」等の意見が出された。

なお、第三回仏教とマルチメディア研究会は、去る十二月十一日午後二時から開催され、立正佼成会（東京杉並）の放送設備を見学させていただいた。

事務局録事

一三月一

三日 局内会議

十日 ルンビニー委員会

十二日 法律相談室
局内会議

十三日 同和委員会正副委員長会議

仏教伝道協会伝道文化賞式典出席
立正佼成会創立六十周年式典出席

十六日 仏教とマルチメディア研究会

二十五日 局内会議

日宗連理事會

二十六日 同和推進担当者連絡会
三十日 理事会

哀悼

檀山大典師（元全仏常務理事）

二月二十一日、八十三歳で遷化

駒沢大学元理事長

訂正 前号四頁、濱野堅照会長（真言宗智山派）は、（真言宗豊山派）の誤りです。また、

評議員中、葦原正徳師（曹洞宗）とあるのは、葦原正憲師の誤りです。謹んで訂正しお詫び申し上げます。

花まつりポスター

本会ではご覧のポスターを頒布しております。明るい春の野に静かに立って、天と地を指すお釈迦さまのお姿は、見る人のところに安らぎを与えることと思います。地域仏教会、幼稚園・保育園などで広くご利用ください。

◎タテ75cm×ヨコ52cm ◎多色刷

◎1枚 100円（送料実費ご負担ください）

◎なるべく早目にお申し込みください。間際のお申し込みですと4月8日に間に合わないことがあります。

全日本仏教会 花まつりポスター係

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



仏教とマルチメディア

真言宗豊山派

<http://www.buzan.or.jp>

真言宗御室派

<http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ninnaji/>

本門佛立宗

<http://www.honmon-buturyushu.or.jp/>

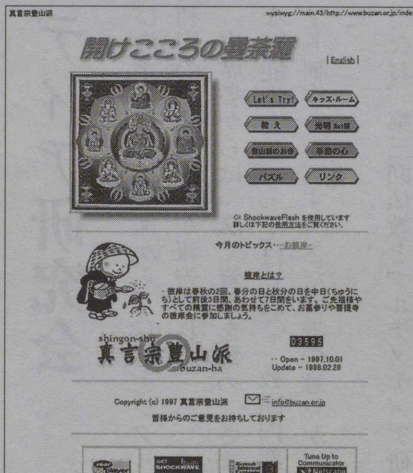
今回は、真言宗豊山派、真言宗御室派、本門佛立宗のインターネットへの取り組みを中心に紹介する。(文責 社会部)

真言宗豊山派

教化センターの田代弘興事務局長、岩田秀芳主宰にお話を伺った。

現在までの経過をお話ください。

ホームページは教線拡張に役立てるため、平成九年の十月一日に開設しました。運営は教化センターの職員中心に行ない、ページの



真言宗豊山派ホームページ

作成は今の所、業者に外注しています。内容は、広く一般の方にはアピールするよう配慮し、若年層向けには塗り絵のコーナーなどもあります。また、一月には西新井大師の初詣風景を、音声や映像で紹介するなど、新しい試みも行っています。

また研究所としては、すでにテレホン相談



真言宗豊山派教化センターの様子

を開設し好評を得ていますが、インターネットを通じて、よろず相談的な質問が寄せられてきています。

今後の展望をお話ください。

ホームページのコーナー毎に接続回数を調べて、内容を整理充実させて行く予定です。またパソコンを導入している寺院はまだ少ないのが現状ですが、宗派内でホームページを開設した寺院とのリンク、さらに将来的には宗派内外との電子メールなどを用いた情報のやりとりなど、ネットワークの可能性を探って行きたいと考えています。

真言宗御室派

総務部企画課の小林弘備課長にお話を伺った。



真言宗御室派ホームページ

現在までの経過をお話ください。



御室派宗務所内の様子

仁和寺は、一九九四年に世界文化遺産に登録されました。その頃より、毎年春、秋の二回、京都在住の各国からの留学生二十名ほどを対象に、仁和寺の建築物、収蔵物、庭園などを専門家を招いて紹介する「仁和寺セミナー」を開設し好評を得てきました。そして昨秋より、さらに広く世界へ向けて情報発信するためにホームページを開設しました。

内容は仁和寺の観光案内（創立の由来、創立者の宇多天皇について、建造物の紹介、御室流華道、霊宝館の行事案内など）が中心になっています。また現在は英文ページの開設準備が最終段階に入っています。

ページの作成と運営は内部で行ない、英文の翻訳については外注しています。迅速な更新などのために、組織としては、小回りの効く運用を心がけています。

今後の展望を教えてください。

現在の観光案内から、今後は宗教的な問題、さらに宗派の事項などへの内容展開も検討しています。また、末寺でホームページを開設している所もあり、インターネットを用いた事務連絡なども、課題はありますが検討してみたいと考えています。

本門佛立宗

広報部の吉井淳諦部長にお話を伺った。



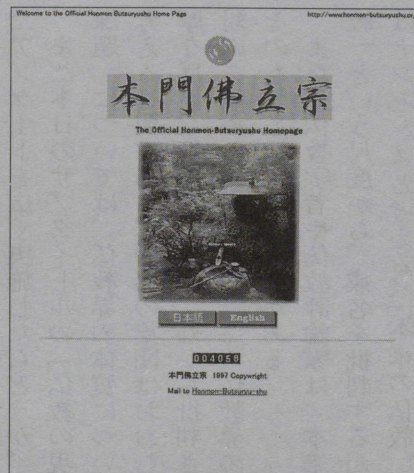
本門佛立宗宗務所内の端末

現在までの経過をお話ください。

インターネットは昨年の五月頃に開設しました。宗務所内の若い職員からの要望があり、テストケースとして立ち上げました。まだ全宗的に行っている訳ではありませんが、今後は本腰を入れて取り組むつもりです。

ページの作成と更新は業者に依頼していま

す。開設以来、四千件あまりの接続があり、また米国ではインターネットを通じての新たな信者の誕生などの事例も生まれました。



本門佛立宗ホームページ

今後の展望をお話ください。

各宗派のホームページを拝見すると、実際によく見る若年層のニーズに対して、提供する側の意識にずれが感じられます。効果的に対象をしぼり、的確に情報を提供する必要があるように思います。そのためには専門の担当者が必要になるかもしれません。

本宗としては教化ビデオ、映画などを作成したことがあり、衛星放送を用いた教化伝道も検討したことがあります。北米、南米などではこうしたメディアを使った教化伝道は一般的ですが、将来を考えると宗教団体の一般への教化活用に、こうした媒体を利用することは必要になると思います。

戒名問題についての研究会

戒名(法名)の意義—仏教の現代的課題

仏教大学元学長
浄土宗三縁寺住職

水谷幸正

平成九年十二月四日午後二時より、リーガロイヤルホテル京都で、本会主催による「戒名問題についての研究会」が開催された。佛教大学元学長・浄土宗三縁寺住職の水谷幸正師が、「戒名(法名)の意義—仏教の現代的課題—」をテーマに約一時間半にわたり、要旨以下のような講演を行った。

(文責 社会部)

※ ※ ※

本日は、京都の一寺院の住職の立場から、戒名の問題について、自分自身の①自己反省、②戒名・法名の意義について、③戒名・法名についての考え方・方法論についての三点を中心に、問題提起をさせて頂きたい。

まず、①の自己反省とは、自分自身の僧侶としての反省を述べるのみで、他者の批判を行うつもりはないということである。

私は戦後僧侶になるため仏教専門学校に入り直した。その頃は在家仏教の立場を採って

いたが、後、昭和三十年頃京都の伏見の寺の住職になった。そしてそのころ既に、僧侶や仏教に対して「葬式仏教」で墮落しているという批判があった。それを当時真に受けて、葬式よりも、寺を一つの文化施設ととらえて婦人会、青年会、日曜学校などを開催した。しかし思ったほど檀家には喜ばれなかった。

また、忙しさから葬式などを近隣の寺の住職に頼んでいたところ、檀家から、「今度の住職は住職として最も大切なことをしてくれない。」という批判が起ってきた。

都会の進歩的な文化人は、葬式仏教をとかく批判するが、現実の檀家は葬儀をきちんとしてくれる僧侶を期待しているのである。このことに、私は寺の住職になって気がついた。日本の仏教にとっては葬式は最も大切なことなのである。

②の戒名・法名の意義については、戒名とは受戒出家の時、師匠から授かる名前である。

また法名とは、受戒をしない宗派では仏法に帰依する儀式である帰敬式などで授かる。しかし、現在は、特に都市部では、受戒とか仏教に帰依するとかに関係なく、戒名・法名は死んでからもらうもの、葬儀に必要なだからつけるものと理解されるなど、戒名の宗教的な意義が薄れて来ている。

③の戒名・法名についての考え方・方法論についてだが、どんな問題でも、1、そのままにする。2、きちつとやめる、3、改良(改善)という3つの方向性があると考えられるが、戒名の問題に関しては、3の、より良い方向に改善していくことが重要であると思う。そのためにはまず、方法と対象に充分配慮したアンケートを広く実施したらどうか。

また本日のサブタイトルの「仏教の現代的課題」については、仏教界の体質についても考える必要がある。僧侶の集団はおおむね温厚な反面、積極性に欠け、外から批判されて対応を始める傾向がある。この仏教界の姿勢そのものも問い直す必要がある。

また、仏教学者や仏教評論家は「本来の仏教」という尺度から、戒名を批判するが、私はナンセンスと考える。「本来の仏教」といっても、言う人それぞれが自分の尺度で「本来の仏教」を規定しているに過ぎない。現代の日本の仏教も、彼らの示す「本来の仏教」



水谷幸正師

から「展開」した大いに意義あるものである。

④戒名についての問題提議について、

1、戒名は大いにやるべきであると考える。このことは後に説明する。

2、戒名料は廃止すべきである。関西にある私の寺では檀家に戒名を付けることでお金をいただくことはない。関東あるいは、関西でも都市部ではもしかしたら一般化しているのかもしれないが、私にはそういう認識はない。しかし葬儀料に戒名料を含める場合、あるいは院号料を戒名料と言うことは関西でもあるが、この場合は院号料というのが普通である。

全 院号料については別に考えても良いと思うが、戒名を付けただけで戒名料をとるのはやめるべきである。戒名についての考え方は、

地方、宗派によってばらつきがある。各宗派、僧侶各自なりに考え対応すべきである。しかし全体として戒名料はやめるべきであると宣言しても良いと思う。

3、僧侶が戒名をつけるのは、先達、善知識としてである。そうした自覚と責任が、我々僧侶にあるか自戒する必要がある。

戒名をつける時に信者の僧侶に対する信頼感があれば、問題は起こってこない。今、戒名問題を通して僧侶としての生き様が問われているのである。

4、戒名は儀礼に関連している。葬儀に戒名が必要である。また残された遺族の追悼にも大切なものとなる。

5、院号・位号は戒名とは別に考えるべきである。寺の護持に対しての熱意の違いが院号、位号などの違いになることはある。

院号・位号などについては信者からの社会的要請によって現在あるともいえるが、我々僧侶はこうしたことに慎重に対処する必要がある。

また各寺に納められた院号料を、寺院護持だけでなく、広く社会福祉に役立てるシステム等をつくると、院号に対する印象も変わってくる。

6、このランク付けについては、万民平等悉皆成仏の精神からいっても、慎重でなければ

ばならないし、また将来的にはなくなった方が良いと思う。また差別戒名については、我々現代の僧侶は、過去において過ちを犯した僧侶達の後を受け取るものとして厳しく反省する必要がある。

7、死んでから戒名をつけるのではなく、現実に寺院活動、教化活動として、帰敬式、受戒会、得度等の行事を行う時に戒名を与える。戒名は生きている時にもらうものという運動を展開していくと、寺院活動、教化活動も盛んになって行くと考えられる。

最後に、僧侶が戒名がいらぬ、お墓がいらぬというのは間違っていると思う。

戒名問題は仏教の現代的課題を解決する鍵になると同時に、僧侶に自覚を促す良い機会になっている。葬式とか戒名問題を考える時には、日本仏教の伝統、日本人の文化、生活習慣を踏まえなければならぬが、時代的展開、その方向性を常に検討しなければならぬ。

法律相談室

長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局（〇三―三四三―七―九二七五）へ事前予約の上おいで下さい。

長編アニメーション映画

蓮如物語

れんによものがたり

Rennyo



原作／『蓮如物語』（五木寛之著・角川書店刊） 製作／真宗大谷派（東本願寺）

製作協力／松プロダクション・東映動画 配給／東映

全国東映系映画館並びに真宗大谷派の指定する上映施設にて

1998年4月25日(土)～5月22日(金)ロードショー

真宗大谷派（東本願寺）が、蓮如上人五百回御遠忌を記念して製作した、アニメーション映画「蓮如物語」が、いよいよ一般公開されます。原作・五木寛之、ナレーション・吉永小百合によるこの長編大作は、今月25日から、全国の東映系劇場でロードショー上映されます。全日本仏教会は、浄土真宗本願寺派（西本願寺）、日本仏教保育協会、全国青少年教化協議会等と共に、この「五百年の時を超えて、私たちに贈られた感動のアニメーション」をご推薦いたします。宗派を問わず、一人でも多くの方が、劇場へ足を運んで下さいますよう、お願いいたします。

アニメ
蓮如物語を
推薦

全日本仏教会ホームページ <http://www.jtvan.co.jp/~jbf>